

第1回近畿本部修習技術者等支援セミナーの報告

開催日：1月20日（土）13:00～17:00（懇親会 17:30～19:30）

開催場所：近畿本部 会議室

参加者数：39名【技術士補・修習技術者22名（うち非会員10名）、技術士17名】

1. はじめに

今年度より近畿本部では、「近畿本部修習技術者支援委員会」が発足した。当委員会では修習技術者だけではなく、学生や一般技術者などの技術士を目指す方ほか、会員非会員を問わず「優れた技術者である技術士」となるための支援企画を試行錯誤中である。

第1回目として開催した支援セミナーの内容は、以下のとおりである。

2. ガイダンスの目的と趣旨（河野 千代 委員長）



写真1 河野委員長

日本技術士会は「試験の実施・登録機関」であり、「受験指導」はしない。私たちは、「資格に合格するための支援」ではなく、「優れた技術者である技術士」となるための支援をしたいと考えている。参加者には、「優れた技術者である技術士」として「社会的・経済的役割を果たす」ことを目標にしていきたい。また、修習理念を踏まえた研鑽の場として当委員会の活動を活用して欲しい。自分に足りないと思われる能力を経験豊富な先輩技術士から学び取り、自身のスキルとして実務社会で生かしながら技術士を目指していただきたいと思います。

当委員会では今後、修習技術者等による研究・業績発表会、グループディスカッションなど、試行錯誤を重ねた支援活動を展開する予定である。

3. 修習技術者が獲得すべき能力（中川 恭男 委員）

「技術士」とは、技術士の登録を受け、技術士の名称を用いて科学技術に関する高等の専門的応用能力を必要とする事項についての計画、研究、設計、分析、試験、評価またはこれらに関する指導の業務を行なうものをいう（技術士法第2条）。ここでは、技術士に求められる資質や能力（専門技術能力、業務遂行能力、行動原則）それぞれの習得について、何が重要で、どうすることが重要かを端的に解説。「専門技術知識の理解等応用」では、自身の専門領域を広げるために新たな分野の専門知識にも関心を払う必要があることなど、幾度も受験経験を持つ粘り強い講師から、経験に基づくアドバイスをいただいた。



写真2 中川委員

4. 技術者の資質向上と社会貢献について（鍵谷 司 委員）

「技術士の資質とは、単なる物知りではない！」達成すべきことを正しく把握し、達成するためのプランを提案でき、達成すべきことをプランとおりに達成できるのが技術士であり、社会の中で実務的に貢献することが求められる。

以下の原因究明事例の詳細から、上記のような「技術士の資質」がうかがえる内容と社会貢献についてお話いただいた。



写真3 鍵谷委員

事例1：RDF&廃プラ自然発火にかかる事例

事例2：廃プラリサイクル施設火災損害賠償事件

事例3：河川水の発泡原因究明事例

問題解決に向けた教訓や、応用能力を磨くための教訓など、失敗を含む多くの実務経験を積まれた技術士ならではの内容であり、有識者と違った実務経験者の視点で成功に導いた数々の事例には、スキルアップにつながるたくさんのキーワードがあった。

5. 技術士によるライブトークセッション(河野委員長, 鍵谷委員, 中川委員, 横山 正 委員)

ライブトークセッションでは、下記のテーマに沿ってそれぞれの経験から本音トークを展開。勉強方法や文章組み立てのコツ、役立つ資料やそうでないものなど、経験から感じたことを率直にご紹介いただいた。

【テーマ】

- ・ 専門を選んだ理由
- ・ 受験のきっかけ・表と裏
- ・ 受験回数は？
- ・ 受験でしたこと
- ・ 敗因は？
- ・ 注意することは？
- ・ 取得で変わったこと ほか



写真4 会場風景

6. 技術士との個別相談会

部門毎に分かれた技術士との個別相談会では、以下のような質問(一部抜粋)が出された。各部会活動への勧誘や、それぞれの技術士が経験を元に助言をされ、熱気ある個別相談会となった。



写真5 個別相談会風景

- ・ ニュースソース、勉強方法や時間について
- ・ 良い資料は？
- ・ 記述問題を自分用にいかに置き換えるか
- ・ 見識や公益について
- ・ 受験科目について迷っている
- ・ 難しい業務を経験したことが無い
- ・ 身近に適切な相談できる指導技術士がいない
- ・ アルバイトは業務経歴に入れてもよいか ほか

7. おわりに

予想を超える参加者となり、大盛況であったが反省点も数多く見られた。これら反省点を次回に生かし、改善に向けた試行錯誤を重ねてさらなる支援活動の充実を図りたい。

(文責：河野 千代)